

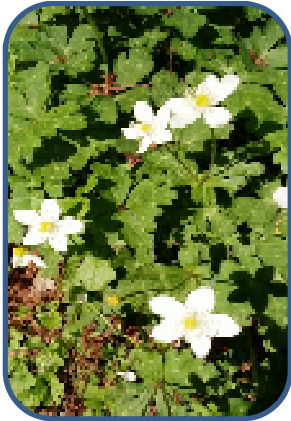
善福寺川周辺の樹木と野草

～～野草シリーズ～～

林 静(S45 経)

野草シリーズ第1回の第2弾は、「都会では数少ないこんな花もありますよ」と題して、都会では比較的出会うことの少ない花をご紹介します。3月から4月頃に、是非この花を求めて、善福寺川周辺を散策されてはいかがでしょうか。ご要望があれば、ご案内することも可能です。

(写真1)



私の大好きな花の一つ、「ニリンソウ（二輪草）」(写真1)です。3～4月頃、白い花を2輪ずつ伸ばして一斉に咲きます。善福寺川緑地公園には、直径5～60cmの株を3つ見つけており、毎年咲くのを楽しみにしています。ここでは人目を避けるようにひっそりと咲いています。神田川の久我山駅やや下流右岸にも、10株以上群生しているところがありますよ。

(写真2)



(写真2)は、「オオアマナ（大甘菜）」、別名ベツレヘムの星といわれているようです。ハイキング散策の会では、この花の群落を見にわざわざ秋川近辺にまで出かけます。花期は短く、3～4月の快晴の日の午前中に見るこの花は、まさに星のような輝きを私たちに見せてくれます。善福寺川緑地公園では、セキレイ橋近辺の公園内の2か所の花壇に咲いており、花壇から逃げ出して咲いている花もあります。

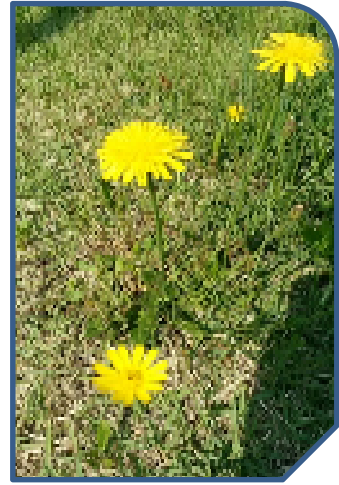
(写真3)



(写真3)は、ジシバリ（地縛り）です。茎が地面を張って根を下ろし、地面を縛っているようなイメージなのでこの名が付いたそうです。この写真は、神代植物園で写したものです。4～5月頃、和田堀公園の釣り堀の横で、「オオジシバリ（大地縛り）」の群落を見ることができます。ジシバリよりも、葉が大きく長く、茎もやや長く大きめの花です。次にご紹介するブタナと合わせ、「あつ、タンポポが咲いている…」で済ませてしまう方が多いのではないかと思います。

タンポポの花の茎を2~3倍に伸ばしたような長い茎が2~3枝分れし、その茎の先に、鮮やかな黄色のタンポポのような花を付けているのが「ブタナ（豚菜）」（写真4）です。花の大きさは3~4cmで、茎の長さは50cmほど、6月~9月頃、本当にタンポポと良く似た花を咲かせます。ブタナという名前は、フランスで「豚のサラダ」と呼ばれているところから付いたそうです。綺麗な花の割にはちょっと気の毒な名前ですね。松溪橋下流左岸の、旧荻窪団地の草原に見ることができます。また、ちょっと郊外に出ると、道路の中央分離帯や草原などで、良く出会うことができます。

（写真 4）



（つづく）